学校応援隊はえばる

ボランティアにご協力いただけるかたは、ぜひお電話ください。【問】南風原中央公民館　☎889-0568

南風原中・南星中合同平和学習　令和５年５月５日(金)

「戦争体験者等聞き取り調査」

左下３番目から
金城弘子(きんじょうひろこ)さん 赤嶺松栄(あかみねまつえい)さん 大城逸子(おおしろいつこ)さん

町内の2中学校の生徒達が戦争体験者と南風原平和ガイドへ体験談等の聞き取りをしました。

戦争体験者が減少する中、中学生が語り部となるよう聞き取り内容をまとめ、各学校の平和集会で発表します。

翔南小学校・６学年　令和５年５月25日(木)

「南風原平和ガイドによる南風原壕群20号、戦争、平和について」

大城逸子(おおしろいつこ)さん

南風原壕群20号、町内の沖縄戦当時、戦後の様子を大城逸子さんから聞き、戦争、平和について考え、南風原壕群20号、文化センターを見学しました。

北丘小学校・６年生　令和５年５月19日(金)

「平和学習　体験者講話」

大城敏雄(おおしろとしお)さんと代表児童

町内の戦争体験者、大城敏雄さんをお招きして６年生全体で講話をお聴きしました。代表児童より印象に残った話や、「沖縄戦について深く学び、また平和について私達にできることを考えていきたい」とお礼の言葉がありました。

南風原小学校・４学年　令和５年６月９日(金)

「パッカー車・資源ごみ講話」

町委託ごみ収集業者　大嶺創(おおみねつくる)さん

町委託ごみ収集委託業者とワークプラザ南風職員を招き、ごみの分別の仕方、リサイクルされるごみの行方について学習しました。

また実際に、パッカー車やリサイクル収集車の見学も併せて行いました。

はえばるエコセンターだより

【問】はえばるエコセンター　☎098-889-4425

南風原町在住の方に対して、エコを身近に感じられる体験を毎月開催しています。申込みはエコセンターへ来店、または電話にて予約ください。
※各体験の集合場所、持ち物、注意事項は予約の際にお伝えします。

7月3日(月)より受付開始

夜の観察会

末吉公園を散策し、夜の生き物を観察します。

▶日時：**7月21日(金)18:00～20:30**

▶場　所：末吉公園内 森の家みんみん
▶料　金：大人300円　子ども200円(保険料込み)
▶対　象：親子(小学生以上)
▶定　員：20人
▶注意事項：・スニーカー着用(光る靴、サンダル不可)
・大雨中止、小雨決行　傘でなくカッパ持参
・長袖、長ズボン推奨

土のお話と「いっぺーじょーとー君」説明会

生ゴミが土にもどるメカニズムや微生物のお話と、沖縄の気候に合わせて開発されたコンポスター基材いっぺーじょーとー君の説明会を行います。夏休みの自由研究にもおすすめです。

▶日時：**7月24日(月)10:00～12:00**

▶場　所：はえばるエコセンター
▶料　金：無料　▶定　員：6人

川の観察会

国場川に住む生き物を調べます。生き物は捕獲しますが観察会終了後に自然に返します。講師：嶋津信彦(しまず外来魚研究所)・石神安弘(Natural Box(株))

▶日時：**8月1日(火)9:00～11:00**

▶場　所：国場川(イエローハット裏の川)
▶料　金：大人200円、子ども100円(保険料込み)
▶対　象：小学生以上　▶定　員：20人

藍染め講座(大人向け)

洋服を長く楽しむことが出来るよう藍で染めなおします。講師：藤井粋子

▶日時：**7月11日(火)10:00～12:00**

▶場　所：はえばるエコセンター
▶料　金：1人1500円(布200gまで)
▶対　象：町民優先
▶定　員：6人

夏休みは30分早く開館します！

より多くの子どもたちに利用してもらうために、夏休み期間(7/21～8/31)は開館時間を30分早めます！

●通常
【平日：10:00～19:00、土日：10:00～17:00】
▼
●夏休み期間
【平日：9：30～19:00、土日：9:30～17:00】
※9月１日からは、通常の開館時間に戻ります

読書通帳にスタンプを押そう!!

7/1～8/31の間、10冊たまるごとに下の8種類のスタンプから1つ選んで押せます。スタンプが4つたまるとプレゼントがあります。お楽しみに！！

夏休み親子工作
『クラフトテープでカゴを作ろう！』

日　時：7月26日(水)10:00～11:00
場　所：南風原町立図書館　絵本コーナー
対　象：町内の小１～小３の児童で親子で参加できる方
定　員：7組　**参加費：**無料
申　込：図書館カウンターにて、7/3～受付けます。
定員に達し次第受付終了します。

図書館だより

【問】南風原町立図書館　☎889-6400

開館時間／10:00～19:00(土日17:00まで)
休館日／毎週火曜日、第４木曜日、祝日

７月受入予定図書

都合により受入れが遅れる場合があります(詳しくは図書館まで)

・それでも旅に出るカフェ／近藤史恵
・祖母姫、ロンドンへ行く！／椹野道流
・居場所をください
沖縄・kukuluの学校に行けない子どもたち／藤井誠二
・みんなが輝くために／梅田真理
・電子回路マジわからんと思ったときに読む本／堀桂太郎
・みがいてあげる／ふくべあきひろ
・ぼくはいったいどこにいるんだ／ヨシタケシンスケ
・くもをさがす／西加奈子
・戦国武将伝　ねこねこ日本史／そにしけんじ

いつでも、どこでも読める電子図書館

電子図書館ホームページ

電子図書館申し込みについて

文化の泉

宝物(たからむん)

No.42

アイスケーキ

南風原文化センター　☎889-7399

昨年の夏、町内のある工房にお邪魔したときのこと。工具が入ったひとつの木箱が目にとまりました。いかにも使い込まれたその木箱には、消えかかった文字で「アイスケーキ」と書かれていました。

「アイスケーキ」と聞いて、あなたはどんなものを思いうかべますか？世代によってイメージするものが異なるかもしれません。かつて沖縄では、棒がついた氷菓、いわゆるアイスキャンデーを一般的にアイスケーキとよんでいました。私のまわりでは、復帰前に幼少期をすごした60～70代以上の方々が、現在でもアイスケーキとよんでいる感じがします。

沖縄では昭和30年頃から各地にアイスケーキを作る工場ができたようです。南風原では、1959(昭和34)年に喜屋武でアイスケーキ屋が開店し、子どもたちに親しまれました。

さて、あのアイスケーキの木箱に話を戻しましょう。工房の方にうかがうと、木箱は父親の時代からあったとのこと。詳しい話が聞けるかもしれないと、工房の方の親戚にあたる字本部の昭和８年生まれのＯさんを訪ねました。

Ｏさんは、両親が戦死して親戚に預けられましたが、13歳頃から大工見習いとして働き、自立しました。17歳頃にはアイスケーキを売るアルバイトもしていたそうです。国場に小さなアイスケーキ工場があり、Ｏさんはそこでアイスケーキを木箱に詰めて、自転車で兼城や山川のマチャーグワーまで配達しました。暑い夏、木箱に詰めただけのアイスケーキは、配達の途中でどんどん溶けてしまったそうです。Ｏさんは当時のことを語りながら、子どもたちには自分の若い頃のような苦労はさせたくなくて一生懸命働いた、とおっしゃっていたのが印象的でした。

残念ながら工房にあった木箱はＯさんが当時使っていたものかはわかりませんでした。しかし、この木箱を見ていると、冷房はおろか冷蔵庫も普及していない時代、アイスケーキが溶けないように必死に自転車をこぐＯさんの姿と、それを心待ちにする子どもたちの顔がうかんできます。あの頃のアイスケーキには、きっと今とは違うおいしさがあったのでしょうね。

(前城)

アイスケーキの木箱